

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないでください。発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなってください。火災などの原因になります。
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的資格者が工事をおこなってください。誤った配線工事は感電や火災の原因になります。
- アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。
- メタルスズ張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造管物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズ、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること。漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります。
- 交流 100 V 以外では使用しないこと。火災・感電の原因になります。
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること。排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。

注意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります。
- ファア部品の取り付けは確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）。感電および故障の原因になります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと。火災・故障の原因になります。
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと。けがをするおそれがあります。

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的資格者がおこなう必要があります。
 - 大工工事（設置のための下地工事等）
 - 配線工事（コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等）
 - 電気工事（ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等）
 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400Pa/h 時 50Pa 以下のものでご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲したダクトは排気効果をいちいち低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用ねじは 45mm の長さのものが同梱されており、壁下に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。

また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。

- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。なお、製品取付高は、製品の下面が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高温になるため故障の原因になります。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で制御される場合は油煙が捕集されませんが、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³ 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので、排気ダクト・給気ダクトには断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないでください。発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります。
- レンジフードは、薄板の金属（壁内ラスタ網など）と接触しないよう取り付けすること。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなってください。火災などの原因になります。

注意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと。火災・故障の原因になります。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。

製品単体質量

900 幅	30.0 kg
750 幅	28.0 kg
600 幅	26.5 kg

1 取付面の強度確認

製品を支える強さが確認する必要があります。

2 吊りボルトの設置

2 本の吊りボルトを下図および製品寸法図を参照して天井部に取り付けます。※ 吊りボルトは M10（市販品）を使用してください。※ 吊りボルトは耐荷重 200kg/本となるように取り付けてください。

3 別売部品の準備

排気工事に伴った別売部品の準備が事前に必要です。

4 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下面まで 80cm 以上です。※ 火災予防条例では、グリッド・フィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

5 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

必ずアース（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが異常動作することがあります。

製品寸法図

(単位: mm)

標準取付例

製品下側からスロットフィルタ下まで

付属品

- 座付ねじ (φ5.1×45, 8本) 本体・側板の取り付けに使用します。
- 吊り金具 (1個) 本体の取り付けに使用します。
- 取付ねじ (M4×8, 4本) 側板の取り付けに使用します。
- 側板 (2個) 本体後面に取り付けます。
- フランジ付き六角ナット (M10, 4個) 本体の取り付けに使用します。
- 天吊り金具 (2個) 本体の取り付けに使用します。
- ソフトテープ (2本) 給気口・排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。
- 給気口 (電動シャッター) (1個) 本体に取り付け、給気ダクトとの接続に使います。
- 排気口 (電動シャッター) (1個) 本体に取り付け、排気ダクトとの接続に使います。

各部のなまえ

前ふた、側板、給気口、スイッチ、排気ファン、スロットフィルタ(プラスチック製)、調整板、電源プラグ、調整板用吊り金具、ランプカバー、排気ダクト、排気ファン

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります。

付属品を確認します。梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い

- 取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。
- 保護用のクッション材を固定テープは「5. 本体の取り付け」手順 5 まではずさないでください。（図 1-1）

2. 本体の準備

1 吊り金具・天吊り金具を取り付けます。（図 2-1）

本体の天板に 2 本ずつあらかじめ取り付けられているねじを使用し、付属品の吊り金具および天吊り金具各 2 個を天板へ取り付けます。

2 吊りボルトに付属のフランジ付き六角ナットを取り付けます。（図 2-2）

吊りボルトの上部のフランジ付き六角ナットを吊り金具のフランジ部にセットしておきます。吊りボルトは取付作業側で手配願います。

※ 下側のフランジ付き六角ナットはまた取り付けしないでください。本体取り付け時に吊りボルトを差し込みなくなります。

3. 給気・排気ダクトの準備

警告

- メタルスズ張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造管物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズ、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること。漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなってください。火災などの原因になります。
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください。

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）。感電および故障の原因になります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと。火災・故障の原因になります。

1 製品寸法図を参照し、開口部に管工業者（法的資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。（図 3-1）

2 φ150 のステンレスダクト、またはスライバダクトを壁の開口部にレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上ります。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

4. 給・排気用部品の取り付けと接続

※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口・排気口を用意してください。

給気口・排気口の取り付け

1 給気口・排気口に付属品のソフトテープを貼ります。（図 4-1）

お願い

手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

2 給気口および排気口を本体に取り付けます。（図 4-2）

- 給気口および排気口のコネクタ位置を基準に、それぞれの取付方向を確認します。
- 給気口・排気口の各取付位置に取り付けている取付ねじ 2 本をはずします。
- 給気口・排気口を本体上面の各差込部に差し込み、それぞれ取付ねじ 2 本で取り付けてください。

お願い

付属品の給気口・排気口にはそれぞれ用途シールが貼ってあります。また、各取付位置の近傍には指示シールが貼ってあります。取付の際には両方をよく確認の上、取付口を間違えないようご注意ください。

電動シャッターへの信号線の接続（図 4-3）

1 給気電動シャッターを接続します。

コネクタ接続部（3P コネクタ）にレンジフード本体の信号線（3P コネクタ）を接続します。

2 排気電動シャッターを接続します。

コネクタ接続部（2P コネクタ）にレンジフード本体の信号線（2P コネクタ）を接続します。

お願い

- コネクタの接続は確実にしておこなってください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
- コネクタを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

コネクタを挿入する場合は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

正しい差し込み方、誤った差し込み方

5. 本体の取り付け

警告

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下により、けがをするおそれがあります。
- 作業は 2 人以上で行うこと。製品は約 30kg の重量があります。

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 5-1）

製品寸法図を参照し、だるま穴位置（左右各 1ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ5.1×45）を壁との隙間 5mm まで締め付けてください。

2 本体を壁面に引っ掛けます。

本体を持ち上げて天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら、ダクトに排気口・給気口を差し込み（図 5-2 ①）、手順 1 で壁面に取り付け付けた、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けます。（図 5-2 ②）

3 付属品のフランジ付き六角ナットで、天吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側からしっかりと締め付けて固定します。（図 5-2 ③）

4 だるま穴用座付ねじをしっかりと締め付けます。（図 5-2 ④）

お願い 本体の水平度を確認しながら固定してください。

図 5-2

- 吊りボルト
- 座付ねじ
- 吊り金具
- 締め付ける

6. ダクトと排気用部品の接続

お願い

- ドリリングタッピングなど排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように図を参照してドリリングタッピングし使用範囲以内に固定してください。（図 6-1）

ダクト接続部の漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 6-2）

排気口設置面の漏れ確認のお願い（図 6-3）

排気口とダクトを接続する際、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。風漏れの場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏れ防止処置をおこなってください。

図 6-1

ドリリングタッピングの深さ（25mm 以下のねじを使用してください。）

図 6-2

アルミテープ

図 6-3

ダクト、排気口、設置面、アルミテープ等

5 調整板をはずします。（図 5-3）

保護用クッション材は本体の取付手順 5〜10 において取りはずしてください。手順 10 まで終了したら、保護用クッション材を元の位置に取り付けてください。

- 調整板の左右を両手で支え、少し押し上げます。**お願い** 調整板を落とさないように両手でしっかりと支えてください。
- 左右の突起を押し込みながらゆっくりと 10cm 程度おろした状態で、調整板を少し奥に押し上げながら上に持ち上げ、調整板吊り金具からはずして手前にはずします。

6 ランプパネルをはずします。（図 5-4）

- 2ヶ所のランプパネル固定ねじをはずします。
- 前側を 6cm 程度おろし、そのままだらま穴にスライドさせ後側両端にあるツメ 2ヶ所をはずし、ランプパネルをはずします。**お願い** 内部の配線を傷ついたり、はんだしないで行ってください。

7 本体背面を固定します。（図 5-5）

付属品の座付ねじ（φ5.1×45）4本で本体の背面をしっかりと固定します。

8 ランプパネルを取り付けます。

はずしたときと逆の手順で取り付けます。

9 スロットフィルタを固定している固定テープをはがします。（図 5-6）

10 調整板を取り付けます。（図 5-7）

- 調整板吊り金具をフードの調整板吊り金具に引っ掛けます。
- 前側をゆっくり持ち上げてピンと音がするまで押し込みます。
- 調整板を軽く上下に動かしてみ、確実に取り付けられたことを確認してください。**お願い** 調整板の固定は確実にしておこなってください。ロックが不十分だと調整板の落下の原因となりますので、取り付け後、再確認してください。

7. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないでください。発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります。

分解・修理・改造禁止

● 交流 100 V 以外では使用しないこと。火災・感電の原因になります。

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的資格者が工事をおこなうこと。誤った配線工事は感電や火災の原因になります。

● アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

1 アース（D 種接地工事）を取ります。

※ アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセント（2 極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。

- コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

8. 側板・前ふたの取り付け

1 付属品の側板と前ふたを用意します。

側板・前ふたは変形させないよう、十分ご注意ください。

2 左右の側板を取り付けます。（図 8-1、図 8-2）

- 後部 2ヶ所の切り抜きを本体に引っ掛け、2) 付属品の座付ねじ（φ5.1×45）各 2 本で背面を固定します。

3 前ふたを取り付けます。（図 8-3）

前ふた上部のツメを側板上部の長穴に引っ掛け、ローラーキャッチで下側が固定されるまで押し込みます。

お願い

フード本体上面の白テープは前ふた取り付け時のスリ防止用です。「9. 試運転」終了後にはがしてください。

9. 試運転

注意

- 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと。けがをするおそれがあります。

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各通風の運転が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

[製造元] **-FUJIOH-** 富士工業株式会社
 本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号
 TEL 042(768)3754 (営業部)